

報告順番	時間	会場A(3階303教室)	会場B(3階304教室)	会場C(3階307教室)	会場D(3階308教室)
前半①	13:00～13:25	共生社会と多様性—日本で働くベトナム人の事例から考える— (渋谷節子・福知山公立大学)	北海道畑作経営の輪作体系におけるマメ類生産の役割と課題—十勝地域のマメ類生産に注目して— (吉岡徹・酪農学園大学)	再生可能エネルギーの地域分析—固定価格買取制度の公平性に関する評価 (岡本悦司・福知山公立大学)	共生社会と応答することの倫理—子育て環境の個人化と情報化の時代に— (増田敬佑・東京農業大学)
前半②	13:25～13:50	クルーズ船寄港による商店街再生の可能性に関する研究—周辺地域住民の異文化受容意識に着目して— (張明軍・福知山公立大学)	減農薬稲作から農本主義への展開—なぜ宇根思想の到達点は有機農業ではなかったのか— (大石和男・京都大学)	中国における再生可能エネルギーを活用した農村開発 (劉健・東京農工大学)	フードスケープを活用した食に関する情報と知見の学際的統合の実践 (太田和彦・総合地球環境学研究所)
前半③	13:50～14:15	インドネシアからの水産加工業における外国人技能実習生受入の課題—茨城県大洗町の事例研究—(カウナン春奈・東京農工大学)	広域経営法人の経営戦略が地域水田農業に及ぼした影響と展望 (福地正人・早稲田大学)	社会・自然関係に関わるレジリエンス論の動向:その可能性と課題 (市原あかね・金沢大学)	共生の人間論—和辻倫理学における個人についての考察 (栗山はるな・京都大学)
前半④	14:15～14:40	共生様式を決定する上での中間組織の役割—日本の労働組合を事例として— (武谷嘉之)	地域資源管理における協同性とその継承—地域農業組織の歴史を振り返って— (呉鷲・早稲田大学)	持続可能な開発の実現に企業の取り組む実態—エッセンシャルオイル企業「ドテラ」を事例に— (陳創斌／轟海松・東京農工大学)	共生社会における専門性・専門家の役割と課題—「トップダウン」と「ボトムアップ」の区分を用いた分析— (杉谷和哉・京都大学)
前半座長		中川光弘(茨城大学)	柏 雅之(早稲田大学)	桑原考史(日本獣医生命科学大学)	上柿崇英(大阪府立大学)
後半①	14:50～15:15	教育民泊(少人数分宿型教育旅行)受入後の農山漁村移住に関する一考察 (中尾誠二・福知山公立大学)	AI技術を用いた地域情報の分析—福知山市—京丹波町間の観光者行動— (神谷達夫／山本隆志／玉井 晶也／古澤凧・福知山公立大学)		医療分野の共生社会について —共生できること、共生できないこと— (芦田信之・福知山公立大学)
後半②	15:15～15:40	共生社会のシステム化を目指して—数値モデルへの応用— (砂子岳彦／福田鈴子・常葉大学)	農業へのAI技術の応用 —農作物選別システムの検討— (神谷達夫／山田篤・福知山公立大学)	自然保全を学ぶための動物園教育の意義と可能性 (河村幸子・東京農工大学)	共生に向けた実践へ:協同を前提とした共生デザイン手法～地球共生デザイン手法確立へのみちすじ～ (白鳥武・摂南大学)
後半③	15:40～16:05		ICT活用による健康支援サービスの開発・実用化—高齢者の熱中症予防に向けて— (垣内康宏・福知山公立大学)	大学におけるスチューデントアパシー問題とその対策 (堤眞次・東京農工大学)	【企画セッション】 二元性のはざままで共生を考える/ Regarding Kyosei in duality (白鳥武・摂南大学／岩本恵里・摂南大学 / Brian Rice・マニトバ大学)
	16:10～18:00	【企画セッション】 (学会主催・与謝野町協賛) 地域再生 (古沢広祐・国学院大学／荒木和秋・酪農学園大学／矢口芳生・福知山公立大学)			(15:40～17:40)
後半座長		荒木和秋(酪農学園大学)	武谷嘉之	太田和彦(総合地球環境学研究所)	千年 篤(東京農工大学)